

(13) 西土佐小学校

学 校 長 段松 淑子
校内研究代表者 伊与田 紗代

1. 研究主題 「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童の育成」

～「読み」を通して～

2. 主題設定の理由

本校は、昨年度より学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業の指定校として、研究主題を上記のように設定し取り組んできた。

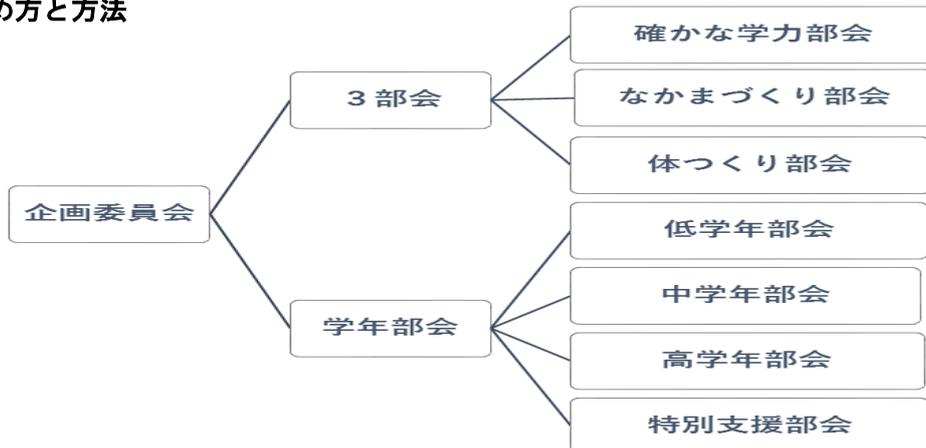
昨年度は、単元構想の際、学習指導要領をもとに育成したい資質・能力を明確にし、適切な言語活動を位置付けたり、図書館資料等を活用し、並行読書したりすることで、言語能力や情報活用能力の育成及び定着を図ってきた。そのため、平成30年度高知県学力定着状況調査結果では、5年国語以外は全国平均を上回り、「読む力」においては、4年・5年ともに目標を達成したことから、取組の成果が出てきたのではないかと思われる。しかし、文を絵や図、資料等と関連させて読むことや文章を正確に読むこと、言葉のきまりについての理解は、まだ十分ではなく資料等の活用、豊かな語彙力の育成に重点をおいた授業改善を行う必要がある。また、記述式問題に課題があることから、自分の考えが伝わるように表現する力の育成も求められている。

昨年度実施した読解力を測るリーディングスキルテストの結果からも基礎的な文章を読む力は概ねあると言えるが、推論・イメージ同定・具体的同定の数値が低く、文の意味を理解する能力に課題が見られた。全国の平均と比べると、同義文判定と推論が低く、今後普段の生活を含めた読書量の増加や言葉の意味理解（意味調べ等）など基礎的・基本的な語彙の獲得への取組を推進していく必要がある。また、獲得した基本的な知識や技能を課題解決のためにどのように生かしていくか思考・判断し、話したり書いたりすることでの確に自分の思いや考えを表現することができる授業づくりを行うことも必要である。

児童は、学習課題に真面目に取り組むことができるが、主体的に学習に取り組んだり、対話等を通して自分の考えを再構築したりすることに弱さがある。そのため「必然性のある課題設定」「目的ある言語活動の設定」「対話による深い理解」「見方・考え方を働かせる授業づくり」など、授業構成や授業展開を工夫して進めていく必要がある。

そこで、研究主題を「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童の育成」と設定し、これらの課題解決に向けて、新学習指導要領の趣旨を踏まえ主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善し、読解力向上を目指すとともに授業の中で図書館を活用して身に付けた読み方を日々の読書へとつなげていきたい。

3. 研究の進め方と方法



- ・全体研究日…第1、3、4水曜日（15：15～16：40）
- ・全員が学年部会以外に3部会の何れかに属して、全員で研究を推進していく
- ・3部会日…月1回程度（各部会で必要に応じて）
- ・学年部会…各学年、学級の研究授業前に事前研を行う（1回以上）
 - ※3部会・学年部会は、第2・4金曜日の7校時に設定（クラブ・委員会のない日）

4. 具体的な取り組み

(1) 確かな学力部会

① 授業力向上

- ・図書や新聞等を活用した授業による言語能力及び情報活用能力の育成
- ・資質能力ベースの授業づくり（めあてとまとめの整合性、思考過程の分かる板書やノート）
- ・主体性（目的・相手意識、課題設定の工夫）
- ・対話の充実（対話する場の設定、交流で使いたい言葉の活用）
- ・研究授業の実施（教材研究、模擬授業、事後研究を含む）
- ・日々の授業改善（各種学力調査結果、授業力チェック集計結果、授業参観、学習ノート等）
- ・予習を活かした授業づくり

② 基礎学力の定着

- ・西小タイム（月・木：漢字、火・金：計算／単元チェック）
- ・ぐんぐんタイム（新聞・意味調べ・辞書）
- ・国語を中心に語彙を豊かにする（言葉の広場・力を活用、単元ごとの伝国指導）
- ・学習規律の月目標

③ 読書活動の推進

- ・年間読書目標冊数の設定（低100冊、中70冊、高50冊）、「読書の花」による促進
- ・週1回学校図書館を利用する。（本の借り換え）
- ・図書委員会による読書推進の取組（読み聞かせ・辞書引き・発表朝会等）
- ・本に親しみやすい環境づくり（各学級に必読図書の設置、壁面等）

(2) なかまづくり部会

① 道徳・人権教育

- ・人権道徳の校内研修
- ・人権参観日・人権週間の実施（人権宣言・人権標語の作成）
- ・道徳参観日の実施
- ・「高知の道徳」等の活用推進（道徳コーナー、学級懇談等）
- ・特別支援学級の理解学習、通常学級との交流学习

② キャリア教育

- ・キャリア教育の校内研修
- ・教育活動の共通理解と系統的な活動の実施（年間計画の実施検証及び見直し）
- ・生活に関する月目標（規範意識の向上を図る）

③ 生徒指導の充実・いじめの防止

- ・異学年交流を中心とした活動の実践（わくわくタイム）
- ・児童会を主体としたあいさつへの取組
- ・校内委員会、支援会の実施
- ・児童理解（Q-Uアンケートの実施、「いいところ見つけの木」コーナーの設置）

(3) 体づくり部会

① 体力向上

- ・体育授業の指導力向上（副読本「わたしたちの体育」の活用（全単元）／研究授業を実施）
- ・体力テストの結果を活かした授業改善
- ・外遊びの推奨（長休み）
- ・学級・家での運動（お家でストレッチ）

② 健康教育

- ・にしとさっ子チェック（生活点検）の実施
- ・各学年の生活目標の設定（学期に1回）
- ・保小中で連携した生活点検週間の実施
- ・生活習慣（メディア・早寝）について保護者への啓発（参観日）
- ・ほげんだより、スクールミールだよりの定期的な発行

③安全教育

- ・高知県安全教育プログラムの推進及び学期毎の活用状況を調査
- ・全校防災学習の実施（3学期）
- ・教職員対象のAED講習の実施
- ・避難訓練の内容を見直し、充実させる。

5. 成果と課題

- 令和元年度高知県学力定着状況調査の自校採点では、4年国語+2.9、算数+8.5、5年国語+2.9、算数+13.2、理科+4.0と全国平均を上回る結果となった。
- 資質・能力ベースのまとめ、言葉による見方・考え方の着眼点をもたせためあてに変容したことにより、既習や単元で学習したことを活用するようになってきた。
- 文章の叙述に基づいて自分の考えや根拠を述べたり、資料から必要な情報を取り出したり、自分の考えに合う資料を選択して活用したりする児童の姿が多く見られるようになった。
- 異学年交流「わくわくタイム」を設定し、上学年児童が主体的に活動を考え、下学年と交流できたことがよかった。
- 講師を招聘しキャリア教育についての研修を行い、「キャリア教育とは」「新学習指導要領におけるキャリア教育」「キャリア教育の視点を取り入れた授業」等について深めることができた。
- 人権週間を設定し人権標語、人権宣言を作成した。また人権参観日の授業では人権課題を低・中・高で割り振り実施することができた。
- 講師を呼んで体育の研究授業をし、場の設定の工夫など授業の進め方について学ぶことができ、指導力の向上につながった。
- 引き渡し訓練では、緊急時に安全、確実に引き渡し、引き取りが行われるよう訓練することができた。また、防災に関する意識の向上にもつながった。
- 教師の発問（主要発問、問い返しなど）を精選し、児童の発言をつないだ授業展開の工夫や児童主体となる活動を取り入れながら授業の質を高める必要がある。
- カリキュラムマネジメント表をもとに、他教科や生活との関連を意識し、国語で身に付けた資質・能力を「生きてはたらかせる」場の設定や指導をさらに充実させる。
- あいさつ運動は継続して行っているが、まだ意識が弱い状態にある。決まった場所ではあいさつができるが臨機応変に場に合った対応ができる児童は少ない。
- 「廊下を歩く」「チャイム前行動」「話を静かに聞く」の規範意識のアンケートでは、「よくできる」が目標を下回り、課題が残った。
- 規則正しい生活習慣に対する意識は少し高まってきているが、まだまだ生活習慣の定着にはつながっていない。また個人差が大きく、深夜まで起きている児童もいる。個別指導の充実や保護者への啓発をしていきたい。